

報 告 書

(笹 田 班)

開 催 日 時	平成 2 9 年 5 月 1 2 日 (金) 1 9 時 ~ 2 0 時 5 0 分	
開 催 場 所	旭支所	
出 席 議 員	班長：笹田卓	
	司会者	笹田卓
	報告者	串崎利行
	ファシリテーター	森谷公昭・田畑敬二
	記録者	芦谷英夫
	参加者	江角敏和 議長団：平石誠副議長
参 加 人 数	12 人	
主 要 要 望 ・ 提 言 等	<p>【全体】</p> <p>① プロジェクト推進室が設置された狙い、立ち上げているプロジェクトの内容について（瀬戸ヶ島埋立地活用事業、城山公園整備と歴史資料館整備）</p> <p>【森谷G】</p> <p>① ホンモロコ養殖池の防獣ネットを破る被害があり、足跡が残っているが、イノシシか、イタチ、あらいぐま、ネズミ、ハクビシンか、何か分からない。大根が食べられる被害がある。イノシシに遭遇することがよくある。</p> <p>② イノシシが山の方で墓の斜面を掘り、傾くおそれがあり、畑にするイノシシ柵をしての対応、草刈りなどの手間がかかるようになった。</p> <p>③ 丸原地区ではあまり課題はなく、浜田や今市に近く地区の連帯感が薄く、自由な地区である。4月からのサロンの継続がなく、ミニディサービスがなくなり送迎バスもなくなった。</p> <p>④ 森谷川（一級河川）に隣接して、赤道、私有地があり、竹や木が茂り川岸に倒れかぶさっている。所有者（広島在住）がうるさいので伐採しない、市は私有地であり伐採はできない、としているがむしろ伐採は国がやるべきであり、自治会から旭支所を通していくらお願いしても対応されていない。</p>	

- ⑤ 立木が隣接地、道路などにはみ出しているが、本人ができない場合行政で切ることができないか、大津市は条例を制定し高所作業車で対応している。(障害木除却事業がある)
- ⑥ 木田公民館が主催し地域課題をあげてもらいまとめた。地域の活性化を気にしている、高齢化が進み耕作の放棄は荒廃し、景観を損ね、地域の衰退へつながる。意識を持ってもらう取り組みをしている。景観の保全の試みを呼びかけている。耕作できない人の田んぼを作っている人(服部親子)がおり、地区でこの人を顕彰できないか考えている。
- ⑦ まちづくり総合交付金が緒についたところで、制度が見直されるが、いつまであるのか、将来どうなるのか、30年からどうなるか分からない、金額が減ってもあるのかどうかも分からない。
- ⑧ まちづくり総合交付金は、細かい事務が求められ大変で誰でもできない。細かい報告書を求めず、簡素化し効率化してほしい。
- ⑨ まちづくり総合交付金の繰り越しが認められず、無理して使う例、無駄に使う例があり、単年度で使い切れとなっている。大きな目的、事業をする目的をもって積み立てることを認めてほしい。
- ⑩ 事務は公民館主事がやるのが望ましいとされているが、できず、別の人を雇ってやり事務費が要り、交付金の中から60万円事務局経費、人件費に充てている。
- ⑪ まちづくり推進委員会は集合体で事務連絡調整、事務局機能が大変であり、3分の1を事務局で雇用している人の費用、事務局経費に充てている。
- ⑫ 城山公園整備で観光交流拠点となるとされているが、ゆうひパークでは指さして眺められるが、城山からは海が見えず指さしもできない。月山富田城のように石垣が見られるように整備しないと観光交流拠点にはできない。
- ⑬ 城山公園、歴史資料館整備は、これから検討されるが、議会答弁では金額的なものは行革でやればできる、大丈夫としているが、議員として言い返せるように、もう少し突っ込んでほしい。出雲ドームは利用価値がまだある

が、観光を含め利用価値が高まるように、持続するように効果のあるものにしてほしい。

- ⑭ 旭町には生活改善センターがあるが、市の建物であり100万円～200万円の修繕の予算枠を認めてほしい。木田生活改善センターは天井が落ちそうで釘で止め応急対応している。ガラス、畳、ふすまなどは地元でやっている。
- ⑮ 行政連絡員の報告が地元でされるところとされないところがあり、きちんと報告すべきである。

【田畑G】

- ① 防災無線は整備されているが、旭全体でラジオが入らない、FMはある程度入るがAMは全く入らない、解決できないか全市的に調査する必要がある。速さ、Eモバイル対応などから光ファイバーが必要である。
- ② 高齢化が進み地域に元気がなく、知恵を出す人がいない、考える元気がない、何をすればよいか。基金が無くなり何をすればいいのか困っている。
- ③ まちづくり総合交付金は、人口割をやめて地域へ配分してほしい、人口が減り世帯割ではやれない、まちづくり総合交付金が減るとますます廃れる、高齢化率の高いところは厚めに出してほしい。
- ④ 独り暮らし高齢者が亡くなった場合、地域で葬式ができなくなり、する者もいなくなる。人口減少と核家族化が進み、葬儀は家族葬、葬祭会館で行い、地域との付き合いをやめ、自治会費を払わなくなる。関係が希薄になり、他地域に住む子どもなど親族との関係が断たれる。
- ⑤ 町内集落を統合しても、弱い町内集落ではますますやれなくなる。
- ⑥ ミニディサービス、いきいきサロン事業が廃止されたが、アンケートでは残してほしいとあり、復元してほしい。歴史資料館整備8億円、維持管理費4600万円を回せないか。
- ⑦ 地区社協、公民館から助成、まちづくり総合交付金を持ち出し、自己負担を上げてとりあえずスタートしたが、社協バスを運行しているが、運転手がバスを取りに来

	<p>て、燃料費を地元で負担している。</p> <p>⑧ 和田地区はサロンをやめた、カネがなくなりカネの出どころがない。高齢者は楽しみにしている。福祉、教育にまちづくり総合交付金は使えず、制度をオール浜田で考えてほしい。</p> <p>⑨ サロンの問題は、制度が変わり、制度も態様もバラバラで、問題点を洗い出す必要がある。</p> <p>⑩ 公民館の単独は和田地区だけであり、他地区は地区集会所などに間借りしており、地区集会所を災害避難所としているところがある。テレビのあるところは1か所で他はテレビがない、テレビがあっても有料であり、何とかする必要がある。</p>
--	---

浜田市議会議長 西 田 清 久 様

平成29年5月26日

浜田市議会報告会規程第9条第1項の規定により提出します。

笹田 班

班長 笹田 卓